



《会計・税務の知識》クラウドファンディングを活用した資金調達

はじめに

クラウドファンディングとは、群衆（crowd）と資金調達（funding）を組み合わせた造語です。自ら考えたプロジェクトをネット上でアイデアを公開し賛同者から資金を提供してもらい、期日までに目標金額を達成した場合、プロジェクト立案者にお金が振り込まれます。期日までに目標金額を達成することができなかった場合、賛同者にお金が返金されます。今回はクラウドファンディングの機能や種類についてご紹介します。

1. クラウドファンディングの機能

クラウドファンディングが持つ機能についてまとめてみました。

- ① 資金調達…プロジェクト次第で資金調達が容易にできる
- ② ロイヤルティを高める…出資者が活動前のプロジェクトに関わることで製品やサービスのロイヤルティが高まる
- ③ 認知度の向上…プロジェクトのアピール効果
- ④ 売上の予測…資金の集まり具合に比例する
- ⑤ 起業リスクを下げる…資金調達が達成できなければ、魅力のないプロジェクトだったということ

2. クラウドファンディングの種類

クラウドファンディングには、出資者に対する見返りによって「貸付型（ソーシャルレンディング）」、「ファンド型」、「株式型」、「購入型」、「寄付型」の5種類に分類されます。

	出資者へのリターン	スキームの特徴
貸付型	金銭（配当）	投資家が運営会社に出資をし、運営会社が資金調達者と金銭消費貸借契約を結び金銭を貸し付ける。資金調達者は迅速かつ低金利で借入れをすることが可能。
ファンド型	金銭（配当）	投資家は個々の特定のプロジェクトに対し設立された匿名組合等に出資をし、売上高等の成果に応じて配当を受け取る。資金調達者は成果に応じた配当を行うためリスク分散することが可能。
株式型	金銭（配当） 株式売却による キャピタルゲイン	投資家は非上場会社の株主となり経営に関与できるが、流動性が低く換金が困難。専門性の高いベンチャー投資のため大きなリスクがある。資金調達者は資本金となるため資金を返還しなくてよいが、小口株主が増えることにより事業運営上のリスクがある。
購入型	プロジェクトが提供する 物品や権利	投資家が出資した資金は返還されないが、出資金に応じた物品や権利を取得することができる。物品や権利をいち早く手にすることができるが、出資金と物品や権利と価値がかけ離れる恐れがある。
寄付型	なし	ボランティア、災害復興等の財政支援に利用されることが多い。投資家は寄附金控除を受けられないケースが多数あるので注意する必要がある。

おわりに

国内のクラウドファンディング市場（金額ベース）では、約8割が「貸付型」となっております。国内では、「購入型」で資金調達することがあまり認知されていないのが現状です。新規プロジェクトをお考えの方はクラウドファンディングを利用してみてはいかがでしょうか。（担当：佐藤裕）